

# 日本舞踊の集い

令和七年度小樽市文化祭

大和楽

松

〈正派若柳流若力会〉

長唄

橋弁慶

〈藤間流扇玉会〉

常磐津

廓八景

〈正派若柳流若力会〉

長唄 小曲

梅の薫

〈吉松派若柳流旭甫会〉

長唄

扇の的

〈吉松派若柳流旭甫会〉

大和楽

雨

〈正派若柳流若力会〉

長唄

助六

〈吉松派若柳流旭甫会〉

長唄

新一つとや

〈藤間流扇玉会〉

■ 令和七年十一月三日（月・祝・「文化の日」）

■ 開場 午後一時・開演 午後一時三十分

■ 小樽市民会館

■ 入場無料

主催 小樽市文化祭実行委員会

共催 小樽市・小樽市教育委員会

主管 小樽市文化団体協議会

後援 朝日新聞北海道支社・FMおたる・

STV札幌テレビ放送・一般社団法人小樽観光協会

小樽市総連合町会・小樽ユネスコ協会・

市立小樽美術館協力会・北海道新聞社・

毎日新聞北海道支社・読売新聞北海道支社

阿部建設(株)・医療法人社団熊澤齒科・西條産業(株)・

北海道新聞社・北海道信用金庫・北海道中央バス(株)・

(有)山城屋生花店

協賛

■ お問い合わせ

電話 0134・32・4111（内線7532）

小樽市文化祭実行委員会事務局

（小樽市教育委員会生涯学習課内）

「日本舞踊」は、舞台上で上演する舞台芸術。歌舞伎舞踊の技法が基本です。「踊り」は拍子にのり、「舞」はやわらかく、「しぐさ」は表現を内にこめています。日本舞踊は、二〇二三年に国の重要無形文化財に指定されました。

大和楽 松 若柳尚美翔

三味線音楽に西洋音楽の発声法やハーモニを採り入れた「大和楽」。神聖な松の枝に舞い降りる様子を描いています。男振りで表現いたします。

長唄 橋弁慶 牛若丸 高田 弥沙 弁慶 中村 全博

武蔵坊弁慶が京の五条橋で牛若丸（源義経）と出会い、戦いを挑みます。優美な姿の牛若丸は剛力を誇る弁慶の大薙刀をひらりとかわして降伏させ、二人は主従の関係を結びます。

常磐津 廓八景 若柳 尚鈴

吉原遊廓の四季の移り変わりを近江（現・滋賀県）八景になぞらえています。遊女の心情を唄い、松の位の太夫を讃え、めでたく舞い納めます。

長唄 小曲 梅の薫 会田つばさ 大橋梨華子

琴唄の古い歌詞に補作した作品。「折も折とて」は笛を主としてゆったりと、子どもが仲良く戯れるかわいらしい演出にいたしました。

長唄 扇の的 大橋 凜

『平家物語』の一節、源平合戦の屋島の戦いでの那須与一の活躍を描いています。平家が舟に掲げた扇の的を、源氏の弓の名手である那須与一が見事に射落とします。

大和楽 雨 若柳 亘里

雨の中、池の端を歩く一人の女。「大和楽」の音色に、その情景はしつとりと。

長唄 助六 若柳 旭輝

江戸の粋を体現した伊達男「助六」。粋で気前が良く、筋が通らないことには武士にもひるまず立ち向かいます。

長唄 新 一つとや 中村 全博 尾崎伊智朗 本間 直人 村岡 啓介 鹿角 健太 黒田 敬史 中村 吉宏 荒山 和明

昭和三二年にNHKの委託作品としてつくられました。数え唄の形式で、邦楽の長唄に常磐津や端唄、小唄、地唄、民謡、義太夫の節を取り入れています。